

## 海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和6年2月11日～令和6年2月23日

所属：名城大学薬学部薬学科

学年：4年

学籍番号：190973228

氏名：小島奈々子

### 1. 参加目的

1年生の頃から海外臨床薬学研修に興味があり、海外経験があったため自分の英語力が薬学の分野でどのように生かすことができるか経験してみたいと考えた。また、海外の薬学業界において、薬剤師がどのようなことをしているのか実際に見て学んでみたいと思い、参加した。

### 2. 研修内容

【研修テーマ】アリゾナ大学での海外臨床薬学研修を通して学ぶアメリカの薬学教育

【研修日程】

月日	研修内容
2月12日	オリエンテーション 講義：アメリカの薬学教育
2月13日	講義：高齢者のRSウイルス感染
2月14日	講義：アメリカでのHIV感染症の現状と治療法、DIに関する課題、心房細動の治療コントロール、生徒と教授のSNSを介した関係性の築き方
2月15日	講義：根拠に基づいた薬剤と臨床研修のガイドラインについて パート1
2月19日	病院見学：Banner-University Medical Center 講義：頭痛、甲状腺クリーゼ、IPEの体験教育、皮膚感染症と骨髄炎
2月20日	講義：感染症を専門とした講師の進路選択、外来診療、内科診療の業務内容、コミュニティファーマシーの地域医療における役割・業務内容、製剤学・調剤学（リップクリーム作り）
2月21日	薬局見学：CVS 講義：根拠に基づいた薬剤と臨床研修のガイドラインについて パート2、薬学経済、アドヒアランス
2月22日	講義：高齢者医療、薬剤師の責任と役割、がん医療、てんかん、院内医薬品リスト、Medicine Therapy Management

【研修内容の詳細】

海外研修で受講した講義は、アリゾナ大学の薬学生との集団授業もあったが、レジデント生による臨床研究の発表が多かった。集団授業はツーソンキャンパスかフェニックスキャンパスのいずれかの構内または遠隔で受講できるようになっており、学生に合った学習法で受講できるようになっていた。いつでも発言や質問ができるように、それぞれの受講席にはマイクが用意されていた。スマートフォンを利用して講義中に出題されるクイズに回答するとクラス全員の理解度がリアルタイムで確認できるようになっていて講義を楽しく受講でき、学生が積極的に講義に参加

できるような工夫がなされていた。てんかんや頭痛など症状に関する講義では、具体的な症例をもとにした問題が出題されており、学生と講師の議論や分かりやすい解説があり、講義内容が理解しやすかった。レジデント生による症例報告・発表は主にプレゼンテーション方式であり、発表時間は10分から30分程度で質疑応答を含め1時間くらいであった。少人数でプレゼンテーションを聴講する形式は質問がしやすく、ほとんどの全ての講義で疑問に思ったことを質問することができた。

### 3. 感想

2週間の海外臨床薬学研修を通し、アメリカと日本の薬学教育の違いが強く印象に残った。

アメリカでは、薬剤師免許の取得には薬学部に入る前に基礎科学を2年以上かけて大学で学び、さらに4年制の薬学部を卒業することが必要である。日本は6年制の薬学部を卒業し国家試験に合格することで薬剤師になることができる。

アメリカでは、1年次からカリキュラムに臨床実習が組み込まれており、学年が上がるにつれてその比重が講義に比べて増える。最終学年ではすべての授業科目が臨床実習になり、薬局、病院、成人急性期治療、外来診療の4つの必須分野と小児医療、高齢者医療、研究、感染などの選択分野のうち3つの合計7つの分野を長期間にわたり実地研修を受けることになるため、日本よりも遥かに多くの実務経験を卒業前に積んでいる。1年次の最初にワクチン投与の指導を受けるため、アメリカの薬剤師が日本の薬剤師よりも業務内容が多いのは、学生の頃からの実務経験により知識・技能・態度が涵養されることに依拠すると考えられる。

海外臨床薬学研修において、上述のような話を直接聞ける貴重な経験ができ、大変有意義であった。私は幼い頃、数年間アメリカで過ごした経験があるため、自分が現地で身につけた英語力がアメリカの薬学部で活かせることがあるかを経験したいと思い、今回の研修に参加した。日本でもアメリカでも薬学部に求められる知識・技能・態度はほとんど同じであり、現地での講義内容を把握するのに苦労したのは十分に理解していないところだけと感じた。

日本で薬剤師が英語を必要とする場面はあまり思い浮かばなかったが、この研修を通して海外で活躍されているバイリンガルの薬剤師の話をアリゾナ大学の講師から伺ったり、実際にアリゾナ大学の人と会話したりしたことで、自分の英語力に自信を持つことができ、将来の視野を広げることができた。この2週間の経験は将来の学業や薬剤師業務などの様々な場面に活かしていきたいと思う。

最後に、今回このような貴重な経験をすることができ、現地での活動や生活のサポートをしてくださった皆様に、感謝の意を表したいと思います。